

議会広報調査 特別委員会

平成24年8月21日、湯梨浜町において「鳥取県町村議会広報研修会」に参加しました。
また、特別委員会から、常任委員会に移行するため常任委員会で活動している智頭町議会を8月23日に視察しました。

鳥取県町村議会広報研修会

「親しまれる議会広報づくり」と題して株式会社代表取締役社長 城市創氏の講演を聴きました。

広報紙の編集にあたり、自分たちが読者（町民）の事を考え、解りやすい文章や専門用語はさけ、文章は短くを基

本におくことが大切です。
最初の読者は編集者自身である、と付け加えられました。

町の広報紙は、決まったこのプロセス等は、議会広報紙でしか知らせることはできないので、このことを目指した編集を心がけてほしいと話されました。



議会広報研修会（湯梨浜町）

議会だよりのモニター制度や広告掲載がある広報紙も増えてきているなど参考にするものが多くありました。
各町村の議会だよりの講評を受け、本町の議会だより93号について、よくできているとお褒めの言葉を頂き編集活動に励みとなりました。

智頭町議会へ行政視察

議会広報はどうあるべきか

町民の声で、よく聞く言葉に議会は何をしているのか。議員は何をしているのか。

議会・議員活動が、良く見えないことだと受け止めています。

議会の動きを、もっと町民の皆様にかつていただく責務を担っているのが、議会広報委員会であり、いかにしてこの難題を克服するか？という課題解消に研究協議を重ねています。

その一環として、智頭町議会を視察し、課題解決に向けた研修を行いました。

智頭町議会は、平成21年度に、議会広報特別委員会を議会広報常任委員会に移行し、町民の理解と親しんでいただけける議会広報のあり方を模索する取組をされていきました。

智頭町議会広報の紙面づくり

町民目線の読みやすさを徹底的に求める。

具体的には
読むより、見出し、写真等視覚に訴える。

記事は、町民目線に立つて、議会用語を徹底的に排除した。町民が求めているものを、

町民とのやり取りの中で出来るだけ取り上げる。
智頭町議会広報の取り組み

議会活動を、ただ単に広報紙で訴えるだけでなく、広聴の必要性を強く感じました。

具体的には
広報常任委員会が地域に出かけていく出前広報を行う。

地域は、出来るだけ小さな集落単位を基本とする。

サークル・グループ・サロンの活動団体など機会をとらえて出前広報を行う。

広報紙の内容を、より身近に、より理解を深めることに徹する。

視察研修を終えて

日野町議会広報調査特別委員会としても、議会広報のあり方は、徹底した町民目線に立つて、議会活動、議員活動の理解度を高める行動へ早急に取り組むこと。

読みやすい、読んでみたい広報紙作りはもとより、出前



行政視察（智頭町）

広報、出かけていく広報委員会や議会広聴会を開催する広報常任委員会にする必要を感じました。

要望会開催地募集

常任委員会移行への試行として、町民の皆様のご意見、要望を聴く会を開催予定しています。

自治会、サークル単位でご希望があれば、議会事務局までご連絡ください。
☎ 72・0335

総務経済 常任委員会 報告



集落内にバス路線がない下黒坂



日野町営バス待機所(丸合根雨店横)

町長に提出

提言書

事項

日野町公共交通のあり方について

内容

町営バス事業は、平成18年1月4日運行以来、6年余りが経過し、バス路線も4路線となり、住民への交通手段の提供、住民サービスの向上に貢献された。

しかし、公共交通空白区域の解消、狭間対象者救済推進に努めて、全ての住民の権利の平等化を図りたい。

提言への経過

町営バス事業、タクシー利用助成について、委員会では4月18日、5月24日伯耆町を視察。6月14日、7月11日と検証を重ねました。

8月22日委員会において、公共交通空白地域的大幅な解消と権利の平等化、狭間対象者救済について議論を重ね、次のような総括をしました。

対応策

黒坂地区の公共交通空白地域の解消には、日野町公民館を基点として、10人乗りワゴン車を導入して、デマンド方式で運行し、菅福線との連携を図る。

根雨宿・病院線を舟場地区まで乗り入れをさせたい。

日野病院送迎車との連携を図りたい。

小型車導入、ダイヤ改善により、タクシーワンメーター利用者の利便性が図られる。

狭間対象者、要介護認定者の外出支援サービスは、軽自

動車(福祉対応車)導入か、福祉タクシー利用に助成額の再検討をさせたい。

小型車導入による助成金・県交付金等の活用を検討調査されたい。

この結論に基づき、町長に提言することとして、全員協議会に諮り、議長名で提出しました。

現地調査

交通安全と利便化はどうか

9月19日、道路改良事業の現地視察調査を行った。

町道天王線道路改良(交通安全施設)事業

児童生徒の通学路であり、歩行者と車両を分離する安全安心な道路を整備する。

延長 35㍓

工事費 1339万円

工事完成予定 平成25年3月末まで

町道根雨西側線道路改良事業

町道1号線(根雨街中本通り)の代替路線、福祉施設へのアクセス道路の整備。

延長 128・2㍓

工事費 1188万円

工事完成予定 平成24年11月末まで

町道黒谷2号線道路改良事業

平成23年度繰越、24年度継続事業、交通安全運行のため、見通しよく改良、待避所を整備する。

延長 470㍓

概算事業費 約7千万円から1億円

工事予定 平成25年から26年

いずれの3路線とも、交通安全、利便性等を考慮して、必要と思われる。町道黒谷線については、代替道路の現況、費用対効果を再度調査検証することとした。



町道黒谷2号線(小原から榎市)

教育民生 常任委員会 報 告



町公舎改修工事を調査する常任委員会委員

日野町公舎改修工事は、当初（入札額1995万円）で、工事が進められていました。壁を開いてみると梁や柱のシロアリ被害が大きく、9月議会に320万円の補正が行われたので、現地調査をしました。

公舎（281・69㎡）は、築後154年が経過しており、今後の活用をどうするか、検討が必要と思われる。工期は、6月29日～12月14日

現地調査 町公舎と 歴史民俗資料館

9月20日、現在工事中の日野町公舎改修工事と昨年度工事をされた、日野町歴史民俗資料館改修工事について、現地調査を行い、検証しましたので報告します。



歴史民俗資料館

日野町歴史民俗資料館改修工事は、入札額782万円で、昨年の12月14日に完成。主に床の張り替が行われました。

資料館は築後72年（資料館となつて26年）が経過。裏山からの湧水があり、床板が腐食して使用できない状態となり改修されました。

現在、資料館友の会により運営されていますが、歴史資料の展示は勿論のこと、多方面に有効活用を図りたい。また、貴重な資料があるので、デジタル映像化する必要があると思われる。

西部町村議会議員研修会 親善グラウンドゴルフ大会で優勝

9月5日、西部地区7町村の議員約80名が日南町文化センターを会場に、西部町村議会議員研修会が開催されました。

研修内容は、鳥取環境大学経営学部経営学科副学部長北崎寛教授を講師に「地域の活性化と教育」と題して講演を聴きました。

鳥取県内で日吉津村以外は、人口減少という状況にあり、特に日野郡の高齢化率は50割に近いという現状を踏まえ、地域の活性化は、喫緊の課題であり、的を得た講演会でした。

しかし、高齢化に即した、地域の活性化に明快な答えは難しく、行き着くところは、その地域に暮らす住民の前向きな挑戦意欲をどう涵養して、どう実践につなげるかが問われるところであると感じました。

午後は親善グラウンドゴルフ大会が行われ、西部町村の議員が、スポーツを通じて年1回の貴重な交流の機会となりました。

日野町議会は、健闘して、終わってみれば団体優勝という素晴らしい成績を収めました。



優勝旗と共に

特集 行動

がんばっている人・団体を、3回シリーズで紹介します。

2回目

「たたら」でまちおこし

過疎化が進む日野町ですが、ふる里のこの町を少しでも元気にしたいとの思いから活動をはじめました。

活動の内容としては、たたら資料館の運営、小説TATARAの出版、たたらマップやたたら通信などのパンフ

レットの作成、各種講演会、製鉄遺跡の調査、歴史研究、情報発信など多岐にわたります。

たたら資料館は、近藤一族のお屋敷であった日野町公舎の一角を使わせていただき、お越しになるお客様に大変人気のある建築物です。

文化庁からも視察いただき、

古民家の活用方法としては魅力的だと言われました。

今年、建物の復元工事が行われ、さらに魅力的な建築物になると思います。

製鉄遺跡の調査では、日野町内にたたら場跡が50か所以上あることが分かっており、現状を調査中です。

地元の方の情報を元に調査するのですが都合山、舟場山、朝刈山のように石

高殿模型の修復作業



垣やカナクソの残る大きな遺跡もあることが分かっています。

こういった活動を、ホームページや雑誌などで紹介しています。

昨年は、私たちの活動をお知りになった倉吉の齊江家から、日本が一番古い

高殿模型（都合山たたら原寸を縮小模型）の寄贈を受け、現在私たちが悪戦苦闘しながら修復中です。

また、たたらと根雨の町の歴史を紹介していましたら面白いと評判になり、多くの方がガイドをお申し込みになるようになったため、舟場の古民家を拠点に奥日野ガイドクラブが結成されました。

今年の12月9日には「中国山地たたらサミット」を開催するので、各県を招致するためあちこちに出向いています。

このサミットには、世界遺産選考委員の東京大学西村副学長に、たたら歴史と保存

活用について記念講演をしていただきます。



都合山たたら跡の清掃・草刈りをする会員

地元の貴重な文化遺産である「たたら歴史」を後世に伝えていこうと活動を続けていきます。

現在、会員は150人ほどになって我々の活動を支えていただいています。

会員を随時募集しています。詳しくは、日野町、日南町の各商工会へお尋ねください。

たたら顕彰会

会長 佐々木幸人・記

編集後記

昨年の世相を表す漢字は「絆」でした。

東北地震後、助け合う気持ちの大切さが再認識され、各地域で地区の見守り等、互助精神のコミュニケーション活動が目立つようになりました。

しかし、復興は原発対策も重なって思うようには進んでいない状況です。時間の経過とともに記憶が薄れてきます。

本町議会は、10月16日から18日に宮城県南三陸町に行政調査に行きます。

この災害を見聞し、学んだことを生かしていくことが大事と考えます。

本町も平成12年に鳥取県西部地震を経験し、復興宣言を行いました。

復興について意見交換ができれば幸いと思います。

安達 幸博

議長 広報調査特別委員会

委員長 小谷 博徳

副委員長 安達 幸博

佐々木 求

松原 直人

松本 利秋